

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校音楽科～

第4学年題材名 せんりつのとくちょうを感じ取ろう(第5/8時)

教材曲 『陽気な船長』『ゆかいに歩けば』『白鳥/堂々たるライオンの行進』『とんび』

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素:「音色」「リズム」「速度」「旋律」「強弱」「呼びかけとこたえ」)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

『白鳥』の曲想と旋律の特徴や速度との関わりについて気付く。(知識)

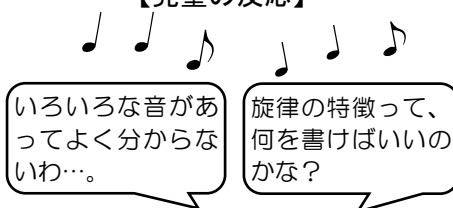
こんな授業になっていませんか?

【教師の発問】

【児童の反応】



今から『白鳥』を聴きます。  
今日の聴くポイントは「旋律」です。聴き終わったら気付いたことや感じたことを書きましょう。



曲を聴いて発表させよう。それから、旋律がどんな特徴なのかを確認しよう。



教師から一方的に「旋律」に視点を置いて聴くことを指示していますが、児童は何を意識して聴けばよいのか分からないため、ただ何となく聴く活動になってしまいます。感じたことを伝え合い、教師が曲の特徴を伝える授業では、単なる知識の習得を目指す授業になってしまいます。

「見方・考え方」を働かせる意識をプラス!

「音楽的な見方・考え方」とは

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。

\*【共通事項】ア

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

『音楽を形づくっている要素』

音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係 など

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

児童が音や音楽に意識を向けられるように学習活動を工夫することが重要です。

音楽科は、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する教科です。音楽に対する感性は、音や音楽の美しさを感じ取るときの心の動きです。それは、児童自身の意思がなければ働かないので、児童が音や音楽に意識を向けられるように学習活動を工夫します。そのためには【共通事項】ア\*の学習が支えになります。

児童が音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えるためには、教師は、題材全体を通してどの要素を思考・判断のよりどころとして児童に学習させるのかを、明確にすることが大切です。授業では、音楽を形づくっている要素を聴き取り、感じ取る学習の場を設定し、「どうして」「どのような」「どのように」などの発問で、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えさせます。音や音楽を自己のイメージや感情、身の回りの生活や文化などと関連付けて、音楽表現をしたり音楽を味わったりすることが重要になります。

授業を こう変える!

- ・二つの楽曲を比較して聴く場面を設定し、「どの動物を表した楽曲か」と考えさせることで、児童が音楽に意識を向けて聴くことができるようにする。…①
- ・図形楽譜を使って旋律を指でたどらせる活動を入れることで、音楽を形づくっている要素に着目し、より実感を伴って聴き取ることができるようにする。…②
- ・「自分のイメージはどこから(どの音から)感じたのか」と問い掛けることで、音楽を自己のイメージと関連付けて考えられるようにする。…③

## このような授業にしていきましょう！

本時までの4時間の授業において、歌唱教材『陽気な船長』『ゆかいに歩けば』を取り扱い、主な音楽を形づくっている要素の「音色」「旋律」「強弱」を思考・判断のよりどころとして学習している。

### 【音楽に意識を向けて聴かせるようにするための場面設定の工夫】…①



同じ作曲者の二つの楽曲の《はじめ》を聴きます。「白鳥」と「ライオン」、どちらかを表しています。「白鳥」はどちらでしょうか。

1曲目が白鳥！

私も、1曲目が白鳥だと思う。

どうしてそう感じたの？

白鳥が気持ちよく泳いでいる感じがしたから。

私は、2曲目よりも優しい感じがしたから。

みなさんは、「気持ちよく泳ぐ感じ」や「優しい感じ」がしたのですね。

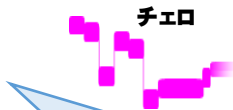
〈児童の姿〉

二つの楽曲を比べて聴く場を設けることで自己のイメージをもつことや楽曲の大まかな雰囲気をつかえることができています。



### 【音楽を形づくっている要素（本時「旋律」）に着目させるための学習活動の工夫】…②

では、もう一度『白鳥』を音で確かめていきましょう。この前歌った『ゆかいに歩けば』のように、旋律を指でたどったり体を動かしたりしながら、1曲目の《はじめ》のところを何度か聴いてみましょう。



下がったと思ったら一気に上がった。



ピアノは速いわ。ずっと同じ動きをしている。

どのような様子が思い浮かびますか？

白鳥が大きく羽を広げているようです。

湖の水の様子を表しているようです。

〈児童の姿〉

旋律を指でたどったり、体を動かしたりする活動で、音楽をつかえることができています。また着目した音色の旋律をたどることで、実感を伴いながら音楽を形づくっている要素をつかえています。体全体で音楽を感じ取ることにより、自己のイメージをもつことができています。

### 【聴き取ったことと感じ取ったこととを関連付けるための問い掛け】…③



旋律の動きや音色から、どんな様子なのかについて思い浮かべることができましたね。では、初めて感じた「気持ちよく泳いでいる」について話し合ってみましょう。どの音から、そのように感じたのでしょうか。



ぼくが水の上を白鳥がすうっと遠くへ気持ちよく泳いでいくような感じがしたのは、チェロの旋律の動きからです。始めは、なめらかだったけれど、途中で「ターンタタタ…」と一気に音が上がったので、その時に遠くへ気持ちよく泳いでいるように感じました。

ピアノの音や旋律の動きが湖の様子を表していると思います。気持ちよく泳いでいるように感じたのは、チェロのゆっくりとした旋律の動きからだと思います。

〈児童の姿〉

「どの音からそう感じたのか」の問い掛けにより、自己のイメージと聴き取ったことを関連付けて考えています。また、児童同士で話し合うことにより、児童は見方・考え方を働かせています。

## ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

### 楽曲全体を味わって聴く場面で



最後にもう一度全体を聴きます。自分が好きだなと思うところで手を挙げましょう。なぜそこが好きなのか、理由も考えましょう。

私は、最後の部分が好きです。それは、チェロとピアノの旋律のかけ合いが、ゆったりとした気分になるからです。白鳥が湖の流れに乗りながら遠くへ遠くへと泳いでいくような感じがします。

〈児童の姿〉

これまでの活動を生かし、主な旋律を曲全体を通して着目させることで、構成をつかえる活動に主体的に取り組むことができています。音楽全体を味わって聴くことにつながります。